

Contents

1...トップインタビュー:

「幸せいっぱい ユニ・トップ」

経営計画「REACT1000」の有終の美を飾り、
未来の礎づくりに着手します。

2...財務データ(連結)

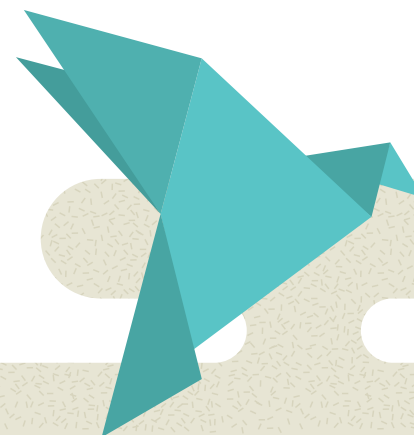
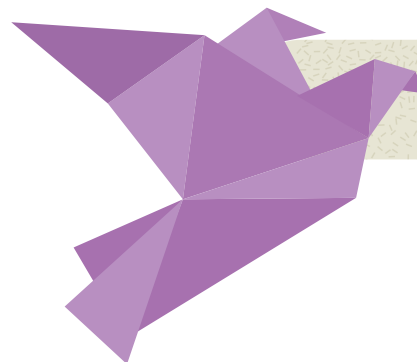
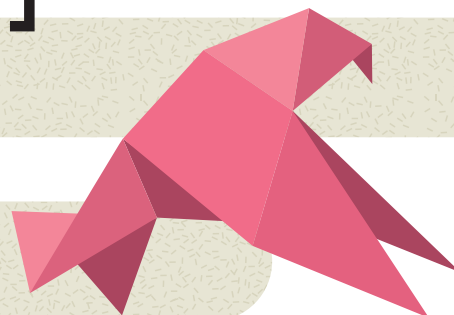
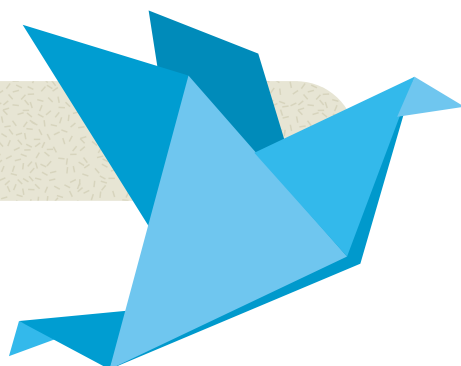
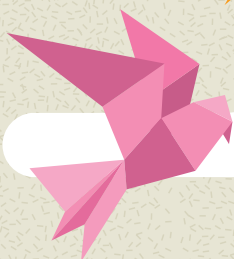
3...事業セグメントの概況

4...連結財務情報

5...DKS Close-Up

6...決議結果・株式の状況

7...会社概要



経営計画「REACT1000」の有終の美を飾り、 未来の礎づくりに着手します。

5カ年経営計画「REACT1000」の最終年度となる2020年3月期。新たな始まりを見据え、変化の中で生き抜くイノベーションに挑みます。

代表取締役 会長 兼 社長

坂本隆司



「REACT1000」最終年度へ向けて

2019年3月期の売上高は前期に比較して増収ながら、営業利益は減益でした。原料価格の上昇、研究開発費の増加、高水準の減価償却費等が理由ですが、収益の高さでは過去二番目を記録しました。稼ぐ力の源泉となっている周辺事業テーマ「ネクスト」領域が好調です。新分野「ドリーム」領域であるライフサイエンス事業に本格参入したチャレンジの1年でした。

有終の美を飾る今年度の取り組み

2019年の年間標語は、「幸せいっぱい ユニ・トップ」です。激動の時代であった平成が幕を閉じ、新元号

令和がスタートしました。革新を求められるからこそ、不変である人間の幸福が大切だと考えています。独自性で評価されるユニ・トップを掲げ、幸福度の向上を図ります。

生産、営業、研究、管理の各部門に、それぞれの課題を指示しました。生産には、「スマート化」です。インターネットの普及、人工知能の進化により、21世紀は前の100年とは異質の経済になるでしょう。地球を取り巻く空間と時間が縮まるスピードの時代です。スマート化による生産性の向上が企業の存続を左右します。生産の各部署が、製造プロセスの効率化、さらなる品質の向上に着手しています。

営業には、「最適な事業ポートフォリオ」の構築です。現在の事業に残る老朽設備関連の不採算分野を見直します。好調なネクストが生み出すキャッシュ

のある時に行う撤退ルールの前倒しです。研究部門は、「開発スピードの加速」に取り組みます。製品開発に注力する重点市場は、環境・エネルギー、電子材料、ライフサイエンスです。110年の歴史で培った技術を基礎に、AIも活用した機能・用途開発を行います。相互に閃き合えるインスパイアード・パートナーとの関係を深化します。

管理部門が、「社員幸福度経営の推進」役を担います。当社は、「健康経営優良法人2019～ホワイト500～」に2年連続で認定されました。健康経営の取り組みをさらに進化させ、社員満足度の高い働き方を実現します。

次期5カ年経営計画「FELIZ 115」とSDGs

最終年度に、脚下を照らした有終の美を飾り、115周年を迎える次期経営計画作成に着手します。幸福度経営とご説明しました。新計画の名称は、ラテンの言葉でいう幸せ、FELIZを使います。会社を取り巻く4つのステークホルダーに、FELIZを頭文字にした英語のテーマを定めました。

F=FUTURE(未来)、E=ENVIRONMENT(環境)、L=LIFE(生命)、I=INNOVATION(革新)、Z=Z・FLAG(挑戦)。Zは、御代替わりをきっかけにした奮起のZ旗を意識したものです。始業式で、例えば、社員にとっての未来とは、株主様にとっての革新とは。みんなで考えようと訴えました。

国際連合のSDGs*17項目のうち、当社は以下の5つを取り上げ、次期経営計画に盛り込みます。社是の「産業を通じて、国家・社会に貢献する」は、SDGsを包括した考え方と思っています。社是を再認識して、具体的な事業戦略、施策を策定します。



*Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標

将来の成長へ向けた基盤づくり

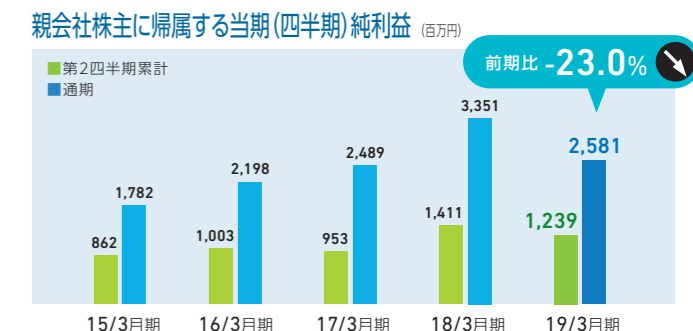
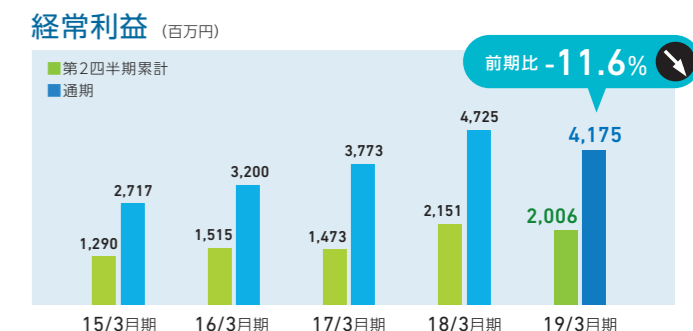
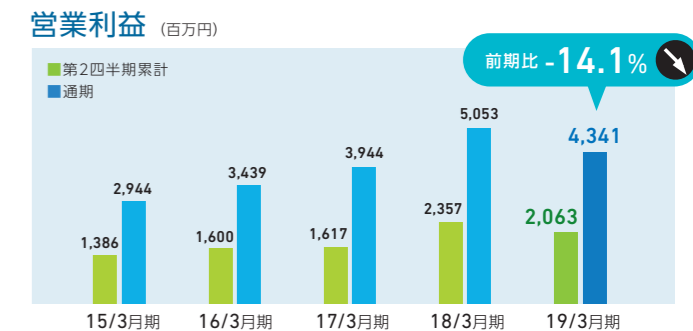
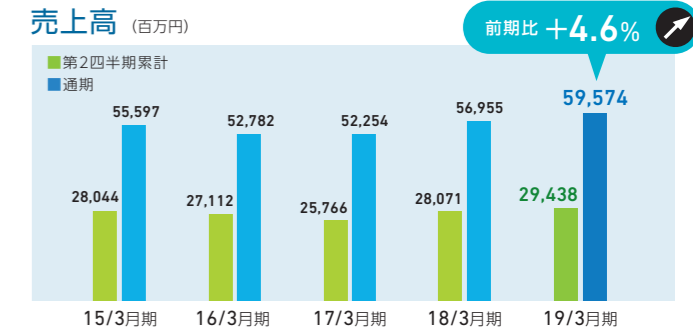
従来の発想と異なるイノベーション力が問われます。変化の中で生き抜くには、新規分野の開拓が必須となります。当社は2019年3月期、株式会社バイオクーン研究所と池田薬草株式会社の全株式を取得しました。ライフサイエンス事業に本格参入したのです。人間生活に不可欠で景気変動の影響を受けにくく、安定成長と高い収益性が期待されます。2019年3月にこの事業の新拠点として、岡山県の吉備に約75千平米の土地と建物を購入しました。

4月1日に創設したのが、製剤開発推進室です。十数年間にわたり製剤分野に取り組んでいるベンチャー企業との提携検討の最中にあります。元医薬業界の経験者複数名を採用し体制を整えました。当社が目指すSDGsの方向性に合致し、日本政府が進める「地方創生」、「事業革新の異業種連携」に沿う案件です。事業展開を通じ、次世代を担う人材育成と将来成長の基盤づくりにつながります。

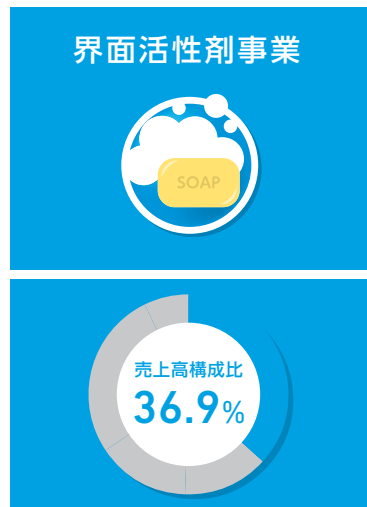
株主のみなさまへ

株主のみなさまのご期待に応え続けるには、何よりも安定成長が重要です。「REACT1000」計画の進捗と現実を直視し、ライフサイエンス事業等の新規事業の開拓や周辺事業の充実拡大が柱となります。株主のみなさまのご支援にお応えできますよう全社グループを挙げて取り組む所存です。一層のお力添えをお願い申し上げます。

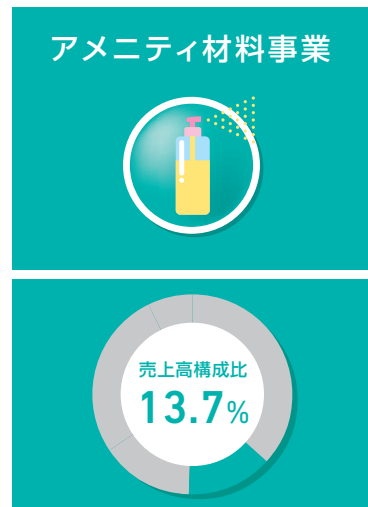
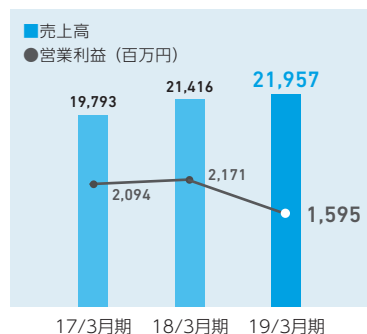
財務データ(連結)



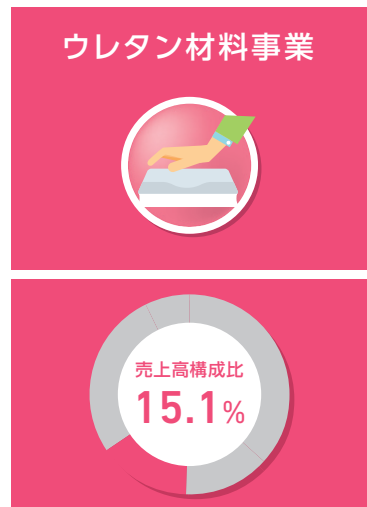
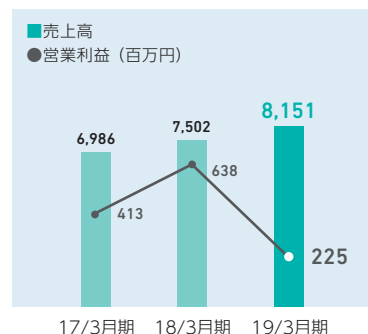
事業セグメントの概況



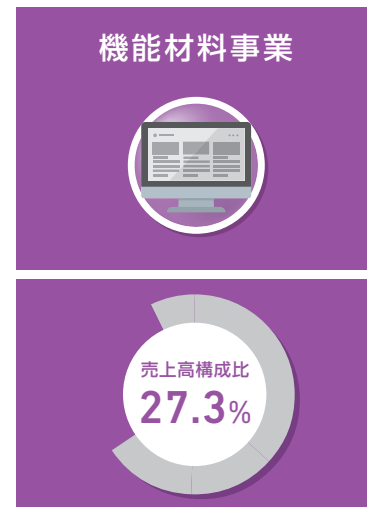
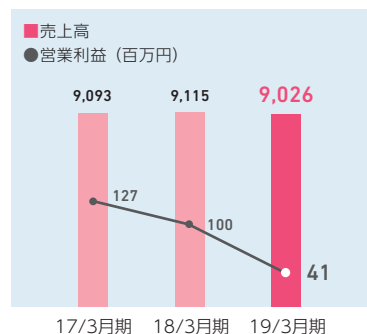
石鹸・洗剤用途は大きく落ち込み、トイレタリー用途は低調に推移し、機械・金属用途はやや低調に推移しました。ゴム・プラスチック用途は順調に推移し、IT・電子用途は好調に推移しました。その結果、売上高は総じて好調に推移しました。



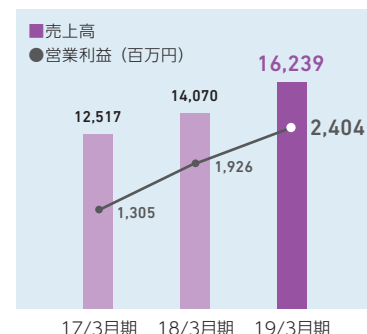
国内のセルロース系高分子材料は飼料用途がやや低調に推移しましたが、エネルギー・環境用途は伸長しました。海外のショ糖脂肪酸エステルは香料品用途が好調に推移し、食品用途は伸長しました。その結果、売上高は総じて伸長しました。



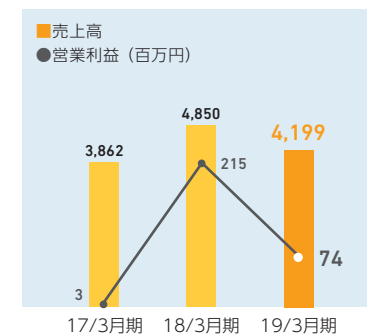
IT・電子用途の機能性ウレタンは好調に推移し、フロン規制に関連する環境配慮型の合成潤滑油は堅調に推移しましたが、土木用薬剤は大きく落ち込みました。その結果、売上高は総じてやや低迷しました。



国内外とも、難燃剤はゴム・プラスチック用途が顕著に伸長し、光硬化樹脂用材料はIT・電子用途が顕著に伸長しました。その結果、売上高は総じて大幅に伸長しました。

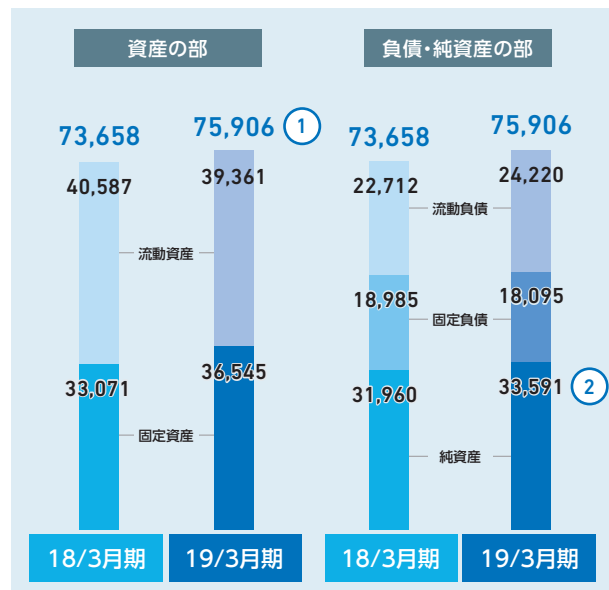


太陽電池用途の導電性ペーストは伸長しましたが、射出成形用ペレットはやや低迷しました。その結果、売上高は総じて低迷しました。

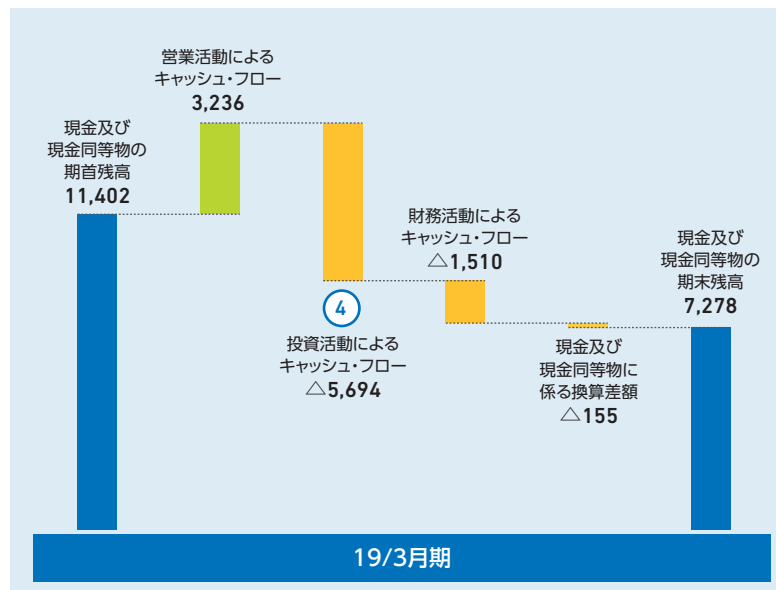


連結財務情報

連結貸借対照表 (百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)



ポイント

① 総資産

前連結会計年度末に比べ22億48百万円増加し、759億6百万円となりました。流動資産は、主に受取手形及び売掛金が13億57百万円、商品及び製品などのたな卸資産の合計が19億87百万円増加し、現金及び預金が40億38百万円減少しました。固定資産は、機能性ウレタン製造設備及び台湾の連結子会社における新工場建設等により有形固定資産が21億40百万円増加し、ライフサイエンス分野で新しく2社を完全子会社としたことにより8億71百万円のものが増加しました。

② 純資産

前連結会計年度末に比べ16億30百万円増加し、335億91百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する当期純利益25億81百万円及び剰余金の配当7億10百万円などにより利益剰余金が18億90百万円増加したことなどによるものです。

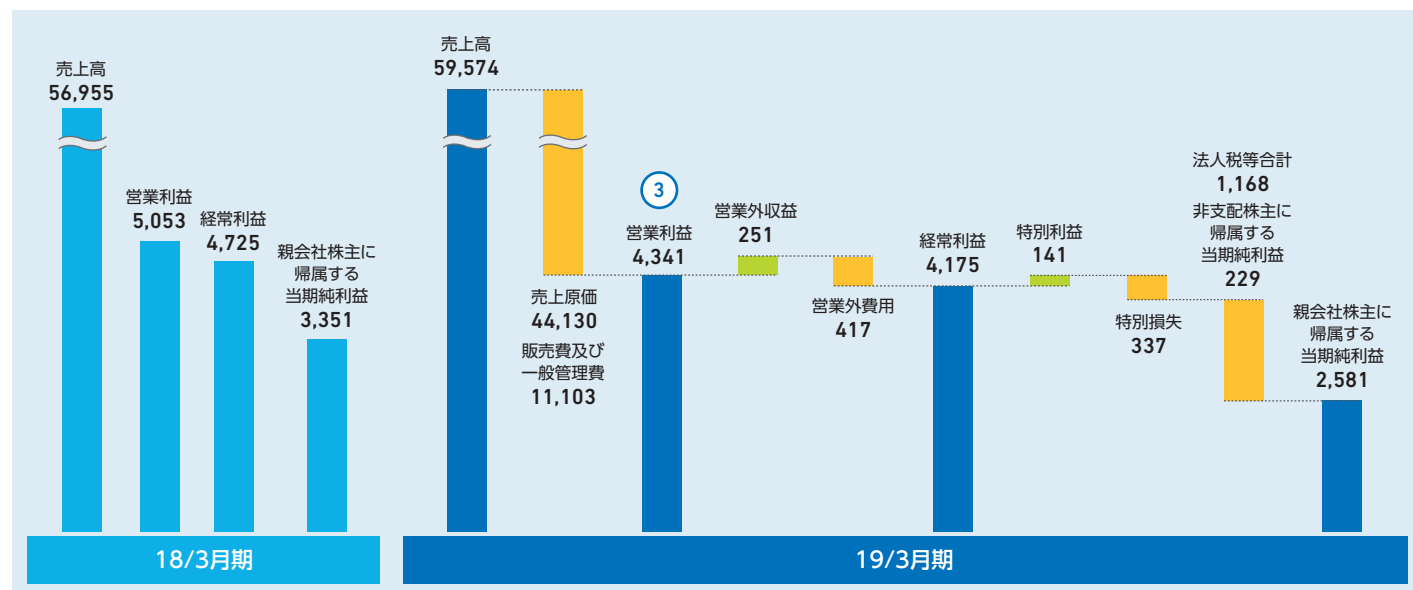
③ 営業利益

『機能材料』セグメントのIT・電子用途等を中心とした高付加価値品の売上が顕著に伸長しましたが、ライフサイエンス事業をはじめ、今後の安定成長に向けた研究開発促進・強化のための費用がかさんだことから、営業利益は43億41百万円(前期比14.1%減)となりました。

④ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得37億7百万円、投資有価証券の取得9億70百万円などにより資金が減少し、投資活動の結果、使用した資金は56億94百万円となりました。

連結損益計算書 (百万円)



第155期定時株主総会決議のご通知

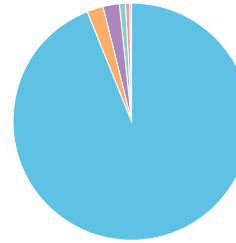
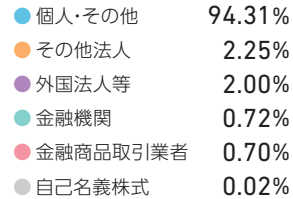
2019年6月25日開催の第155期定時株主総会は、お客様をもちまして終了いたしました。その決議の結果につきましては、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載しております。

こちらをご覧ください
<https://www.dks-web.co.jp>

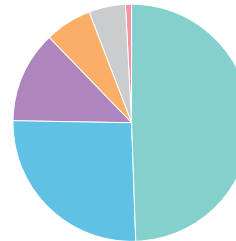
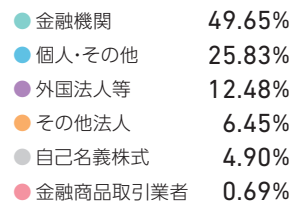


株主分布状況

株主数比率



株式数比率



【単元株式数の変更と株式併合のご案内】

当社は、2018年6月26日開催の第154期定時株主総会の決議により、2018年10月1日をもって当社普通株式について5株を1株にする株式併合を行い、また、単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

大株主一覧(上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,438,400	14.16
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	670,500	6.60
第一生命保険株式会社	613,400	6.04
株式会社みずほ銀行	427,000	4.20
株式会社京都銀行	417,000	4.10
朝日生命保険相互会社	339,400	3.34
DKS取引先持株会	278,100	2.74
第一工業製薬従業員持株会	255,325	2.51
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	178,400	1.76
RE FUND 107-CLIENT AC	149,838	1.47

(注) 1.当社は自己株式を523,435株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株主優待のご紹介

1 対象となる株主様

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された

当社株式
100株(1単元)以上
 を保有する株主様

2 株主優待の内容

純国産の「健康補助食品」を是非お試しください。

カイク冬虫夏草5日分
 お試しセット(40錠)

当社製品2,000円分相当



※一般的に冬虫夏草は、昆虫に寄生しその栄養分を採取して育つキノコ的一种で、アミノ酸などの栄養素が豊富に含まれ、中国では数千年前から不老長寿や滋養強壯の目的で珍重されてきました。

3 贈呈時期

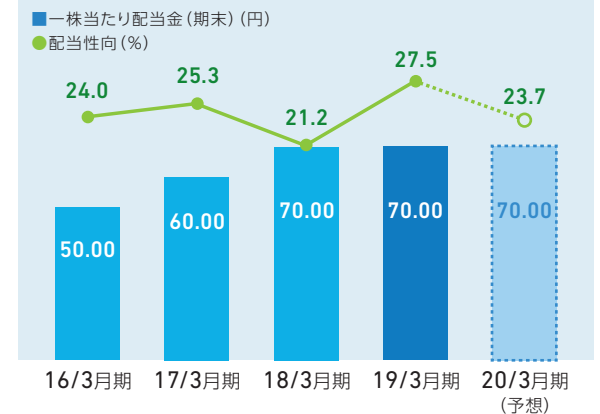
7月初旬頃の発送を予定しております

※日本郵便「ゆうパック」にて配送

ご注意

●優待品は、株主名簿に登録されているご住所にお届けいたします。 ●配送の日時指定はお受けいたしかねますので、ご了承ください。 ●株主様の住所変更のお申し出は、株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、株主様の個人情報は、法令および当社個人情報保護方針に基づき厳重に管理を行っております。

配当金・配当性向の推移



当社は、2018年10月1日をもって当社普通株式について5株を1株にする株式併合を行いました。これに伴い、2016年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

会社概要 (2019年3月31日現在)

会社概要	
社名	第一工業製薬株式会社
創業	明治42年4月
創立	大正7年8月
資本金	88億9,500万円
従業員数	512名(連結985名)

取締役、監査役 (2019年6月25日現在)			
役職	氏名	役職	氏名
代表取締役 会長兼社長	坂本 隆司	代表取締役 専務取締役	赤瀬 宣伸
常務取締役	浦山 勇	常務取締役	大西 英明
取締役	北田 明	取締役	岡本 修身
取締役	山路 直貴	取締役	河村 一二
取締役	三澤 英人	取締役	祝迫 浩一
取締役(社外取締役)	青木 素直	取締役(社外取締役)	谷口 勉
取締役(社外取締役)	宮田 康弘		
常勤監査役	藤岡 敏式	常勤監査役	西崎 信一
監査役(社外監査役)	井手 秀彦	監査役(社外監査役)	田中 晴男

事業所	
●本店	●四日市事業所 千歳工場
●本社・研究所	●四日市事業所 霞工場
●東京本社	●大潟事業所
●大阪支社	●滋賀事業所
●名古屋支店	
●九州支店	

株主メモ	
創業年月	明治42年4月(1909年4月)
事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
配当	期末配当金受領株主確定日 3月31日 中間配当金受領株主確定日 9月30日
単元株式数	100株
発行済株式総数	10,684,321株(2019年3月31日現在)
取扱窓口	証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主さまの各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行っていただくこととなりますので、ご利用の証券会社等へご連絡をお願いいたします。 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、みずほ証券(株)およびみずほ信託銀行(株)にてお取次いたします。 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行(株) 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
お問合せ先	
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(株)および(株)みずほ銀行の各本店および全国各支店
上場取引所	東京証券取引所(証券コード4461)

第一工業製薬株式会社

〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5
TEL 075-323-5911 FAX 075-326-7356
<https://www.dks-web.co.jp>

DKSレポート(統合報告書)
はこちらのQRコードから
☞



TOPIC

ライフサイエンス事業 新拠点用地を取得

2019年3月28日、岡山県加賀郡吉備中央町にライフサイエンス事業の拠点となる用地を取得しました。

経済変化の影響が少なく安定して成長する収益性の高い分野を、ライフサイエンス事業と定めて取り組みを進めてまいりました。次期ステップとして、この用地に専用工場を設け、医薬品製剤、ヘルスケア製品などの製造を予定しており、GMP(医薬品などの製造・品質管理基準)認定の取得を目指します。

また、新拠点での早期の事業育成とともに深刻化の進む少子高齢化社会の課題解決と地域活性化に貢献してまいります。

